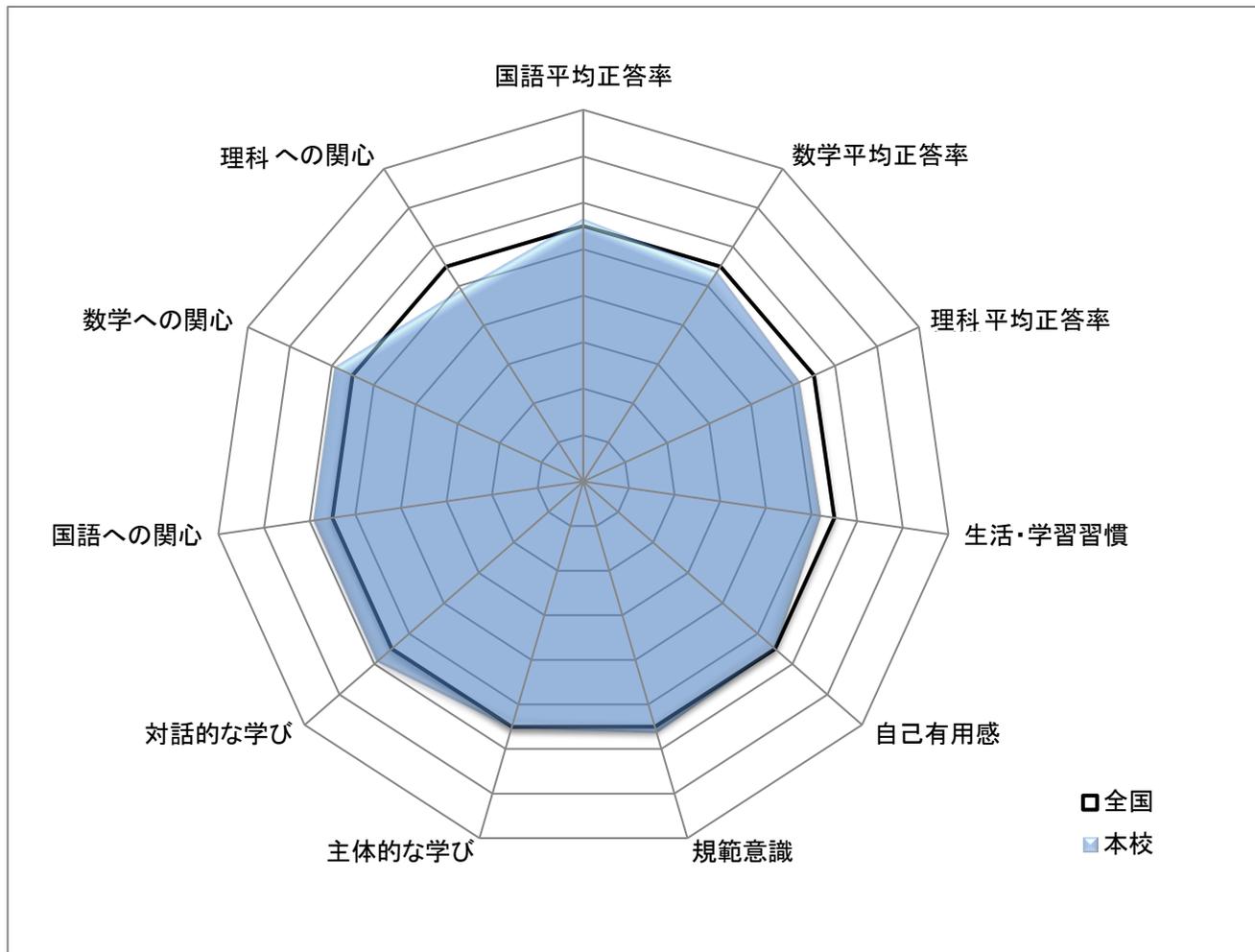


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語: 都平均や全国平均よりも高い数値であるが情報の扱い方や書くこと、記述式の設定に弱点があるという結果が出た。  
 数学: 計算力に関しては小テストを繰り返しいい結果となった。しかし、図形を中心に思考力を問われる問題は対策が必要である。  
 理科: 「地球」を柱とする領域は平均を超えているが、「粒子」を柱とする領域で平均を下回っている。また、短答式、記述式の問題に対する正答率が低くなっている。

《授業改善のポイント》

国語: 様々な文章やデータを読み取る訓練と、それらを言語化して説明するトレーニングを行う必要があると考えられる。  
 数学: 基本となる計算力は維持していきながら、発展的な問題にも時間をかけ、授業内だけでなく自力で解くことができる力を育てる必要がある。  
 理科: 「粒子」を柱とする領域について、原子や分子のモデルをもとに状態変化や化学変化を可視化して理解していく活動を増やし、目に見えない原子や分子の振る舞いをイメージできるようにする。また、話し合いや探求の時間を増やし、身近な現象や日常生活に関連付けながら主体的に考えることで、知識・技能のより深い理解を目指す。その上で、知識・技能を実生活に活用する力、課題解決の方法を考えて実践する力を身につけていく必要がある。

《チャートの特徴》

全国平均と比較して、本校においては国語・数学への関心が高く、対話的な学びに積極的に取り組んでいることが分かった。また、理科への関心と数学・理科の平均正答率が全国平均と比較して低いこと、生活学習習慣の面で家庭学習の計画を立てる意識が低いことが見て取れた。主体的な学びや規範意識、自己有用感においては全国平均程度である。

《家庭・地域への働きかけ》

生活習慣に関する質問事項の中で、就寝時間にばらつきがあること、家庭学習の計画を立てることにおいて、全国平均よりも低い調査結果が出ていた。学年だよりや面談などを通じて、家庭においても協力してもらえよう周知していきたい。